



人と環境にやさしいトランジットモデル都市をめざして RACDA

第 241 号

2023/ 11

車のコスト、計算してありますか？

■「月に 5 万円以上タクシーに乗るんだったら車買った方がいいよ」。筆者が友人に言われ、車の購入を思いとどまったきっかけとなった言葉である。ガソリン価格は上がりになり続け、1 リットル 180 円台となった(※23 年 8 月 18 日現在)。筆者が車を持っていたのは 4 年ほど前でその時は 120 円台で高いなと思っていたから、異常な上がり具合である。家計への圧迫も相当なものである。地方では、駅から遠い所では車がないと生活がしにくいという現状はよく分かる。しかし、だからと言って車の維持費が重荷になり家計を圧迫しているのも事実であろう。家庭や仕事の事情で持たざるを得ない人もいるということも理解は出来るが、思考停止にならないために改めて車の維持費を計算してみたい。

■とはいえ、難しい計算は不要だ。ここでは車購入価格を世間の平均と言われる 170 万円と仮定し、10 年間乗ることとする。年間走行キロは通勤・通学の標準とされる 1 万キロとし、高速道路は使わないとする。さて、こうした条件を基に算出を行った結果が以下の通りである。車の車両代などを入れると、奇しくも友人が指摘した月 5 万円とほぼ同等の年間 62 万円という結果となった。もちろん、これはあくまで様々な仮定を基に算出した結果であり、自宅を持つ人や軽自動車など条件によって異なるだろう。しかし、自宅の場合はその分住宅費が上乗せになるし、軽自動車は車両価格も上がっている。様々な要件を踏まえると車を持つことで年間 60 万円くらいのコストがかかっていると見ていいだろう。言い方を変えると 1 年のうちの 2ヶ月くらいは車を維持するためだけに働いていることになる。年収 100 万以下のパートの人に

項目	費用	
車の車両代	170000	※170万を10年で償却
駐車代	120000	月1万とする。
ガソリン (一般道)	170000	※ガソリン代170円/Lで年間1万キロ走行
任意・車両保険	75000	
自動車税	39500	
車検時の検査料・手数料	25000	
重量税	10000	
自賠責保険	12915	
印紙代	550	
合計	622965	

至っては申し訳ないが半年くらいは車の為に働いていることになる。

■「年間 60 万円で自由に移動できるならば安い」という意見もあるだろう。確かに見かけ上のコストであれば公共交通を我慢して使うことと天秤にかけたら、車を持つことは極端に釣り合わないことではないかも知れない。しかし、こう考えたことはあるだろうか。車を運転している時間は運転しかできない、ということ。運転する時間を他のことに充てられたら、と考えるとどうだろうか？先ほど年間 1 万キロ運転するケースで考えてみよう。平均時速 30km で走行しているとすると、年間運転時間は 333.3 時間となる。控えめに見ても年間200~300 時間である。この時間をどう使うかの差は非常に大きいのではないだろうか。

■公共交通を利用すれば移動の時間を勉強の時間に充てることが出来る、という人もいる。確かにこの 300 時間を使えば新聞は毎日余裕で読めるし、資格試験であれば宅検・FP2級クラスは毎年のように取得可能になる。もちろん、車に乗りながらもドラマを見たり、耳で勉強をして有意義に使っている人もいるかも知れないが、安全運転の観点ではリスクが大きいし、あまり良い環境とは言えない。また時間に対してもコスト計算をする。経済学では機会費用という概念であるが、仮に時給 2000 円とすると、年間で 60 万円分の時間が失われていることになる。つまり年間 60 万円のコストに加えて、年間 60 万円に相当する時間もかかるということなのだ。

■さらに、車のコストとしては健康へのリスクも考慮しておきたい。第六次改訂日本人の栄養所要量を基に計算をすると、車での移動は公共交通に比べると約半分のカロリー消費しかないというデータになる。また、諸外国の状況を見ても、同様に肥満率と公共交通の利用率は反比例の関係にあり、ずっと車を運転し続けた人とそうでない人の中には健康の面でも大きな差が出ることはほぼ間違いがない。家の玄関を出て職場までほぼ自分の足を使わずに移動できる車は便利である。が、その他の場面で意識して運動をし、健康管理を厳重にしていなくてどこかで大病を患い思わぬ出費(入院)になる可能性も高くなる。かくいう筆者も車で生活していた時はランニングを毎朝 4 キロ行い、職場でも意識的に歩いていたが 1 日 1 万歩に歩くのが限界であった。今は駅から徒歩 10 分程度のところに住み、自転車や徒歩での生活を中心にしているが、ランニングを入れると平均 15000 歩くらいの生活を送っている。運転によるストレスも解消され、浮いたお金で自己投資をしたり、本を読んだりできている。

■地方では確かに車がないと不便かも知れないし、持っている生活をする気もない。しかし「ないと生活できない」というレベルで思考停止するのではなく、実際にいくらかかっているのか？なぜ必要なのか？を認識しておく必要はある。今は配送料を払えばどこへでも配達もしてくれる時代だ。車でないと買い物が出来ないならば配送してもらうのも 1 つの手である。世の中には数多くの選択肢がある。広い視野を持ち、正しい選択をして生活するように心がけよう。もちろん、公共交通中心の生活が選ばれることが当たり前となる社会となることを願って。

NPO 法人公共の交通ラクダ(RACDA)

事務局 〒700-0823 岡山市北区丸の内 1-1-15 禁酒会館 3F TEL&FAX 086-232-5502

E-mail:info@racda-okayama.org

URL:http://www.racda-okayama.org

RACDA

検索

